

情報連絡員報告総括表（令和6年5月分）

三重県中小企業団体中央会  
 連絡員総数 40名  
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況								
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化						
製 造 業	食料品	2	2		1	3			4		1	3		1	3			4		1	3		1	3			4							
	繊維工業		2	1		3		2	1			3			3			3		1	2			3			2	1						
	木材・木製品			1		1				1			1			1						1		1				1						
	紙・紙加工品		1	1	1	1		2			1	1			2			2				2		2			2							
	印刷		1			1			1			1				1		1				1			1			1						
	化学・ゴム																																	
	窯業・土石製品		2	1		3		1	2			3		1	2			3			3			3			3							
	鉄鋼・金属			1		1			1			1				1		1			1			1			1							
	一般機器	1	2		2	1		2	1			3			1	2		1	2		2	1	1	2			2	1						
	電気機器			1		1			1			1				1			1			1		1				1						
	輸送機器			1			1			1					1				1			1			1			1						
その他																																		
	小計	3	10	7	4	15	1	7	11	2	2	17	1	2	12	6		16	4	2	11	7	2	16	2		14	6						
非 製 造 業	卸売業	1	1			2		1	1			2			1	1		2		X				2			2							
	小売業	1	2	3		5	1	4	2			5	1		3	3		4	2							6			2	4				
	商店街		1			1		1				1			1				1								1		1					
	サービス業		2	2	X				4			4			3	1		3	1								3	1		3	1			
	建設業		2	2						2	2		2	2		2	2		2				2		2	2				3	1		2	2
	運輸業		1							1			1			1			1						1					1			1	
	その他		2							2			2			2			2						2					2			2	
	小計	2	11	7					8	1	6	12	2		17	3		13	7		14	6					18	2	1	12	7			
	合計	5	21	14				4	23	2	13	23	4	2	34	4	2	25	13		30	10	2	11	7	2	34	4	1	26	13			

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和5年5月～令和6年5月)

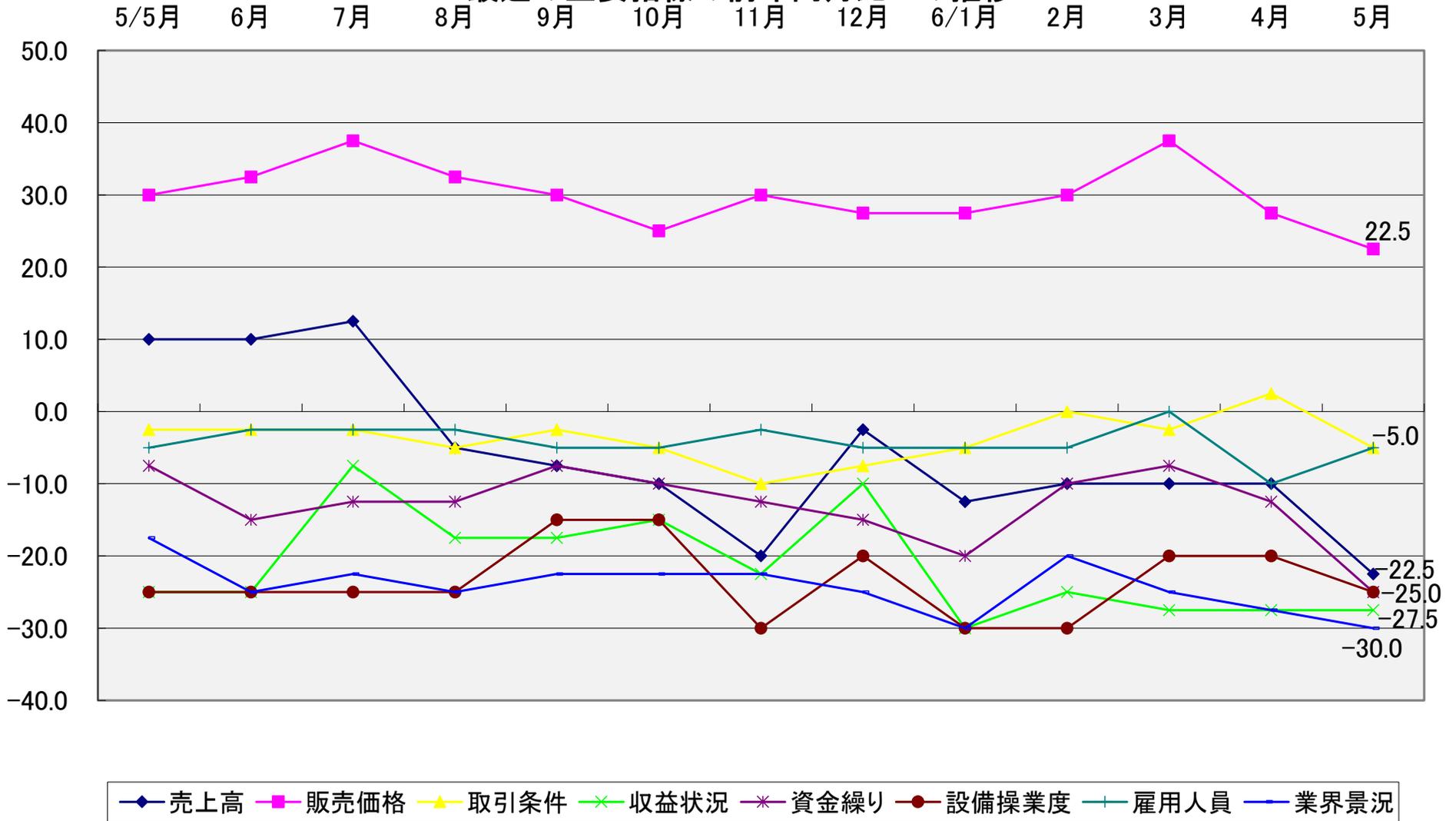
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	5/5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	6/1月	2月	3月	4月	5月	増減
売上高	10.0	10.0	12.5	-5.0	-7.5	-10.0	-20.0	-2.5	-12.5	-10.0	-10.0	-10.0	-22.5	-12.5
販売価格	30.0	32.5	37.5	32.5	30.0	25.0	30.0	27.5	27.5	30.0	37.5	27.5	22.5	-5.0
取引条件	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-2.5	-5.0	-10.0	-7.5	-5.0	0.0	-2.5	2.5	-5.0	-7.5
収益状況	-25.0	-25.0	-7.5	-17.5	-17.5	-15.0	-22.5	-10.0	-30.0	-25.0	-27.5	-27.5	-27.5	0.0
資金繰り	-7.5	-15.0	-12.5	-12.5	-7.5	-10.0	-12.5	-15.0	-20.0	-10.0	-7.5	-12.5	-25.0	-12.5
設備操業度	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0	-15.0	-15.0	-30.0	-20.0	-30.0	-30.0	-20.0	-20.0	-25.0	-5.0
雇用人員	-5.0	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-5.0	-2.5	-5.0	-5.0	-5.0	0.0	-10.0	-5.0	5.0
業界景況	-17.5	-25.0	-22.5	-25.0	-22.5	-22.5	-22.5	-25.0	-30.0	-20.0	-25.0	-27.5	-30.0	-2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする  
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和6年5月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がりが経営を圧迫する状態が続いている。 5月9日に第52回通常総会を開催し、役員の変更(重任)及び議案が全て可決された。 また、JA多気郡が準会員として加入し、伊勢たくあんの振興に向けて、協力して進めることとなった。
		醤油味噌	今月は通常総会の開催月であり、通常総会は無事終了して、組合運営も新年度へと移行した。ゴールデンウィークの人出は全国的に良かったようであるが、中旬以降は販売減となった。組合員2社において、訃報が相次ぎ脱退の申出もあり組合員減少に歯止めがかからない。円相場は、相変わらず円安基調で輸入原材料の値上がりは、今後も続きそうである。物価の値上がりも昨年ほどではないにしても、食品の値上げは続いており、消費者の買い控えが起きると、組合員は生産減に追い込まれ、収益が悪化する。
		他に分類されない食料品 製造業	4月の賃上げ、時給アップに伴い、パート職員4名が社会保険に加入した。これにより、会社負担は10万円以上増えた。加工賃は変わらず、電気代、ガソリンは値下りの様子はなく、経営に影響が出ている。
		製麺	5月29日に昨年に続き通常総会を開催した。4年ぶりに業者の方々にも参加して頂き、楽しく業界の交流が出来た。今後、伊勢うどんを中心に、業界の発展の意見交流及び衛生管理の徹底で、製品のレベルアップをはかっていきたい。各種イベントにも参加を呼びかけて、組合活動の活性化につなげていきたい。
	木材・木製品	木材	円安と物流の2024問題による燃料費、輸送費等のコスト高騰、需要の低迷により経営を圧迫している。
	紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため、原料の確保が課題である。
		古紙	古紙仕入量：段ボール・約94±5%、新聞、チラシ・約84±6%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約86±7%であった。現在、日本は1970年代と同水準の円安とコロナ後のインバウンドであるが、ゴールデンウィークでも地方都市には影響が感じられず、製紙会社の生産予定も年一度の点検整備の関係で、古紙の発注量は20%前後のマイナスである。業者の古紙の余剰在庫はないようである。古紙の集荷も低調で、集荷量の改善は期待できない様子である。円安で製品原紙も輸出古紙の価格も上昇傾向であるが、主原料のパルプも製紙原料古紙もランニングストックのようである。製紙主原料のパルプ価格も4円安とドル価格上昇を受けて高騰のようである。実質物価上昇に伴う2024年の運送問題の値上げの折衝は、打ち合わせをすれば何らかの返事がいただけるようである。面倒なのは、4月の60時間以上残業の割増し賃金と夜間残業の割増し対応、定額減税の計算や社会保険の算定基礎も重なり、中小零細企業の総務には負担となる量である。公的サービス等も生活費等もすべての社員も経営者も負担増のところ、古紙の持ち去りも資源物の高騰で活発化している感がある。この問題は解決せず、古紙や古着の持ち去りやゴミの置き去り行為等は発生し続けており、多様性の時代に正義はない感じがする。古紙の持ち去り問題において、国会で立法化してもらえよう希望する。
	印刷	印刷	今年も三重県より、三重県民手帳事業の当組合への受託が決定した。今回で11回目(11年連続)となるが、組合員が制作から販売まで一体となって取組み、組合販売による収益確保で組合活動の安定化がはかられている。また、組合員による個々の販売で収益に繋がる事業は、組合活動において有益なものとする。 就労賃金において政府は賃金アップをいうが、資材費についての価格転嫁は対民間では理解されるところだが、労務費の上昇についての理解が乏しく反映できない。軒並み資材費が上昇したのにも関わらず、官公庁発注の案件において低価格応札がみられる。しっかりと利益が確保できるような発注制度へ変えていただきたい。
	窯業・土石製品	伊賀焼	組合員の状況は、各自忙しく仕事されている。しかし、原料、光熱費の増加による価格転嫁のタイミングに頭を悩ませている。
	鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、前月よりもやや減少している。自動車関係の受注が想定以上に伸びてこない。今後についても低調な状況が続くものと思われる。
		四日市市	各企業により濃淡はあるものの、全体的に需要は停滞している。需要の低迷により、受注価格の低下が懸念される。原材料費、賃金アップの影響で鉄鋼材料等、素材の価格が上昇しているが、価格転嫁を進めることが難しい状況にある。また、将来的な人手不足が懸念され、各企業とも採用には苦戦している。昨年より停滞していた需要が動き出した気配はあるものの、受注まで結びつかない状況が続いている。中小企業も物価上昇、賃金上昇に合わせた価格への転嫁を進めていく必要がある。

報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和6年5月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	一般機器	津市	売上は増加しているが、材料や製造経費が上がっているため、収益は昨年より悪い状況が続いている。5月はゴールデンウィーク休みがあったので、受注も低い感じとなった。6月使用分以降、電気代も上がるという記事が出ているが、単価に反映してもらえず、また、中国や欧州のEV関連も動きは鈍く、しばらくは厳しい状況が続くであろう。
		伊勢市	状況にあまり変化はなく、相変わらず低調が続いている。収益状況は少し良くなったが、受注はあまり良くならない。特に、自動車関連は引き続き悪い。今年末までは、この状態が続くと予想している。
	電気機器	鳥羽市	年度が変わり電機の情報としては、10%位アップすると聞いている。期待しているが、5月としては動きが出ず、90%稼働状況で動いている。
	輸送機器	伊勢市	中国との関連が多い組合員は、景気悪化の影響が顕著であり、物量減少、収益環境の悪化となっている。物量減少により、残業時間も減少しており、生活費への影響がある等、消費への悪影響も見られる。実質賃金の減少、国内景気の重さを肌で実感するケースが増加している。
非製造業	小売業	青果	野菜前半：茨城県、愛知県産のキャベツは端境期で品薄となり、しばらく価格は高値が続くであろう。岐阜県産、熊本県産のトマトの入荷が増え、お値打ちになっている。新玉葱は、愛知県産が最盛期で、安くなっている。らっきょうは、徳島県産、高知県・鹿児島県産の入荷が始まり、甘酢漬やスライスして生で食べても、天ぷらにしてもおいしい。 野菜後半：長野県産のレタス、サニーレタス、リーフレタスがお買得になっている。ブロッコリーは高値が続いていたが、長野県産の入荷が順調になり、価格が下がってきた。キャベツは高値疲れで値を下げつつある。長崎県産、静岡県産のジャガイモの入荷が少なく高値である。愛知県産、熊本県産ナスもお買得になっている。 果物前半：入荷は全体的に少なく、母の日向けとして、山形県産のサクランボの需要が高まり、大型連休中は一時値を下げたが、産地相場が高く、昨年並みの価格になってきた。県内産のイチゴも終盤になり、価格は安くなっているが、日持ちがしないので、イチゴミルクやジャムにして味わってもらいたい。スイカは入荷が少なく、値上がりしている。 果物後半：鳥取県産のデラウエアが最盛期になり、お手頃の価格になっている。愛知県産、熊本県産のタカミメロンや熊本県産のスイカは3~4月の天候不順でやや小ぶりで、入荷も少なく価格も下がっていない。
		自転車	個人消費が力強さを欠く中、自転車業界においても、売上が過去にない程、低調との報告が寄せられている。(一財)自転車産業振興協会より、令和5年1~12月の生産台数及び需要台数が発表された。国内生産は714,827台(前年比95.3%)、輸入は4,361,945台(前年比86.6%)で、国内向けトータルが5,076,772台(前年比87.7%)となり、コロナ禍となった3年前(2020年)の需要数の718万台位から一気に210万台もの需要減少となった。よって経営に苦慮する声も寄せられている。1月1日の能登半島地震において、石川県の組合事務所他、組合店が大被害(建て替え)にあったことから、石川県、富山県の両県へ県内組合員の協力により義援金を贈呈することとなった。
		電器	ゴールデンウィーク期間中は人の動きも活発で、輸出関連の好景気の話が出ていたが、家電業界としてはまだまだ物価高の影響が続いており、家電製品の1年に1回機種が新型に変わるタイミングで、白物家電を中心に仕入価格が高騰している。旧モデルを確保することで、ある程度対応できているが、新型を通常価格で販売するのはなかなか考えさせられる。一方、三重県の省エネ家電購入キャンペーンが実施されているところから、上位機種に関してはそこそこの動きはあるが、昨年と比較するとスタートは少しゆっくりと感じる。夏を感じるようになれば、予定の予算に達してしると思う。
		石油	4月19日、令和6年度の「中小企業者に関する国等の契約の基本方針」が閣議決定された。本年度の基本方針では、令和5年度に改定された「中小石油販売業者に対する配慮」条項に変更はなく、「石油組合との契約が管内の燃料供給拠点の維持に必要な場合には、調達を費用対効果に優れたものとする」こと等を十分に検討しつつ、当該石油組合との随意契約を行うことができる」とされている。また、一般競争入札への地域要件の設定、分離・分割発注についても引き続き記されている。さらに、経済産業大臣より、各都道府県知事宛に周知文章が発出され、この中で、災害協定に参加している中小石油販売業者に係る受注機会の増大に努めることが明記されている。この他に本年度では、労務費、原材料費、エネルギーコスト等の上昇に伴う契約金額の変更について、適切に配慮するよう新たに盛り込まれた。これらにより、我々サービスステーション業界は官公需契約交渉において、上記のことから有利に進めたい。
		スポーツ	4月から新入学生の学校クラブ活動が始まったが、少子化の影響により、昨年よりも売上が減っている学校、クラブがある。

報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和6年5月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	熊野市	駅前周辺で開催された市街地活性化イベントは、商店街内の朝市イベントともコラボで開催され、例年以上の盛り上がりを見せた。出店された業者も地元だけにとどまらず、各地からの出店が多くみられ、売切れになる店舗も多かったようだ。ただ、業者間からは、原材料費の値上がりを嘆く声が多く、今後は価格転嫁をせざるを得ない状況となり、客離れの心配も多く聞かれた。
サービス業	旅館	ゴールデンウィークはどこも賑わっていたようだが、休暇の前後が谷間となって閑散となるのは、例年と同じような波動を繰り返している。今年はゴールデンウィーク以後の谷間が長かったようで、5月全体では対前年同月比90%、2019年同月比は70%程度のものであった。インバウンドもゴールデンルート(東京から京都)に集中しており、その様子が報道されるため、コロナから回復したように受け止められているが、地方はまだ回復には至っていない。最近入ってきた情報では、岩手県で三代続いていた旅館が3月末で廃業した等、厳しい経営環境にある宿泊業界には、多岐にわたる支援が必要である。
	警備	5月度は例年のごとく休日が多く、稼働日数も少なく、以前のようなイベント警備の受注量も少なくなってきている。
建設業	総合工事業	4月末時点の公共工事の県内企業の受注状況は、対前年度比約75%と厳しい状況であった。特に国発注工事においては、マイナス66.1%と大幅な減少となっている。先日公表された三重県の公共事業予定箇所における事業費は約79億円の増となっており、早期発注が期待される。
	内装工事業	5月は、対前年同月比で少しマイナスとなってしまった。物価高による原材料価格の値上り等、末端の下請けには非常に厳しい状況である。
	水道工事業(亀山市)	今期の組合活動の目標として、働き方改革の労働時間として、漏水発生時の緊急対応の労働時間を土木工事の災害時の対応と同じレベルとして、通常時間の残業、時間外労働とならないよう、市役所との意見交換の実施を行う。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品製造業	通常総会を開催し、役員を2人増やした。従業員であるが承継問題もふまえて考えていかなければならない。ご指導をお願いしたい。
食料品	製麺	各種補助金等があれば、教えてほしい。組合員に発信していきたいので、よろしく願います。
一般機器	四日市	物価上昇、賃金アップ、人手不足と事業環境は厳しい状況が続いている。中小企業の今後の経営環境が改善されるよう、引き続き細やかな支援をお願いしたい。
サービス業	旅館	「近鉄レールパス」が宣伝不足であまり知られていない。旅客にとっては大変有利なのに、高速道路の割引情報も告知不足で知られていない。早急に告知をお願いします。